

授業科目：歯科矯正学

担当教員：本吉 満，中嶋 昭，馬谷原琴枝，納村 泰弘

授 業 の ね ら い	<p>歯科矯正治療は不正咬合患者自身の顎や歯という素材を再構築し、口腔の正常な形態と機能を回復する歯科独特の治療であるが、冗長な治療期間、歯の移動に伴う疼痛、歯肉退縮や歯根吸収など、種々のデメリットもある。これらの問題点を改善すると共に、より良い矯正治療を発展させるために多方面から検討を行う必要がある。この観点から、矯正力に対する歯周組織の応答性とその加齢変化について、また固定源としてのチタンミニスクリューの臨床応用について、動物実験や培養細胞を用いて種々の生物学的検討を行っている。また、モデル実験系を構築し、ストレインゲージや有限要素法を応用したシミュレーションモデルにより矯正力の歯列弓や歯への分布等、詳細な力学的検討を行っている。これらの実験系構築について理解し、適切な実験を積み重ねることにより新知見を見出し、矯正臨床に還元したい。</p> <p>また、矯正治療法に必要な基礎知識を学ぶと共に、各種不正咬合を矯正治療するための臨床的知識、技術を習得し、どの様な不正咬合の治療にも対処できるようにする。</p>
----------------------------	---

テ ー マ：

- 1) メカニカルストレスに対する歯周組織の応答性と加齢変化
- 2) レーザー及びLEDの骨形成促進及び抗炎症メカニズムの解明と臨床応用
- 3) 口蓋の発生とその異常の解明
- 4) チタンミニスクリューを固定源とする矯正治療法の開発
- 5) 不正咬合の診断と治療法の習得

内 容：

上記テーマ 1)～3)については小動物や培養細胞を用い、個々の実験系に従い生物学的応答性を細胞内外の情報伝達面から検討する。テーマ 4)については、動物実験と臨床データ両面から良好な固定源の開発と臨床応用をはかる。テーマ 5)では不正咬合の原因、診断法、治療法を知り、各種不正咬合治療法の実際を学ぶと共に矯正認定医取得を支援する。

成績評価：

研究内容の理解及び進行度と研究業績発表による評価判定。  
提出した矯正治療終了症例の診断、治療法に対する理解度と、その治療結果の評価判定。

そ の 他：